

平成29年度

自己点検・評価書  
(学校評価報告書)

附属池田小学校

## 1 附属池田小学校の現況

### (1) 学校名

大阪教育大学附属池田小学校

### (2) 所在地

大阪府池田市緑丘 1-5-1

### (3) 学級数・収容定員

18学級(1学年3学級) 収容定員人(1学級35人)

### (4) 児童数

613人

### (5) 教職員数

校長(専任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 教諭 24人(うち, 臨時的雇用2人), 非常勤講師 4人  
事務職員 3人, 臨時用務員(用務員1人), 調理員1名, 臨時用務員(調理員4人)

## 2 附属池田小学校の特徴

本校では、平成13年6月8日の事件以後、二度とこのような事件が起こらないよう安全管理に万全を期するとともに、「命の大切さ」を感じとることができる教育内容の研究を推進し、個々の児童が安全な社会の担い手になる教育を進めている。そして、平成21年2月23日に教育課程特例校指定を受け、現在に至るまで全学年で安全科の授業をおこなっている。

また、平成22年3月に日本で初めて国際セーフスクールに認証され、安全教育を広く世界に向けて積極的に発信していくという責任を負い、その成果が認められ平成25年3月には再認証を受けた。平成27年3月6日には、わが国独自の学校安全の考え方をもとに設立された、セーフティプロモーションスクールの認証を受けた。平成30年3月には再認証も受けた。

## 3 附属池田小学校の役割

- (1) 義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを行う
- (2) 大阪教育大学との共同による学校教育と生涯教育の実践的研究
- (3) 大阪教育大学の学部生と大学院生の教育実習と実地研究指導
- (4) 公立学校との実践的研究交流など、地域社会との連携・協力
- (5) 学校が安全で安心できる場所とするための安全教育の実践と発信

## 4 附属池田小学校の学校教育目標

1. 自ら進んで学び、生活をきりひらく主体的な意欲と能力の育成
2. 好ましい人間関係を育てることによる集団的資質と社会性の育成
3. 自他の命を尊重し、社会の平和と発展を希求する心情の育成
4. 健康の増進と、明るくたくましい心身の育成
5. 安全な社会づくりに主体的に参画する人間の育成

## 5 附属池田小学校の学校教育計画

- 1 言語能力の向上、表現力豊かな児童の育成を目指し、各教科、道徳、安全科等を通じて自ら進んで考える力、伝え合う力の定着を図る。
- 2 自他の立場を考えて、共に強調して行動できる児童を育成する。
- 3 生命を尊重する意識を高め、地域社会や世の中の平和と発展を望む心情を育成する。
- 4 身の回りの安全に注意し、自らの心身を進んで鍛えようとする心情を育成する。
- 5 安全科等の学習を通じて、人に守られるだけでなく、周囲に働きかけようとする意欲や態度の育成を図る。

6 附属池田小校の平成29年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

| 自己評価 |              | 学校関係者評価 |           |
|------|--------------|---------|-----------|
| A    | 高いレベルで達成できた  | A       | とても適切である  |
| B    | 達成できた        | B       | おおむね適切である |
| C    | 一部達成できなかった   | C       | あまり適切でない  |
| D    | ほとんど達成できなかった | D       | 適切でない     |
|      |              | E       | 判定できない    |

|        |  |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 自ら進んで学び、生活をきりひろく主体的な意欲と能力の育成。                                      |
| 学校教育計画 | 言語能力の向上, 表現力豊かな児童の育成を目指し, 各教科, 道徳, 安全科等を通じて自ら進んで考える力, 伝え合う力の定着を図る。 |

| 本年度の重点目標<br>(評価項目)                         | 具体的な取組内容<br>(評価指標)   | 自己点検評価   |  |    | 学校関係者評価                                       |    | 学校関係者評価を<br>踏まえた改善策  |
|--|--|--|--|----|---|----|--|
|  |  | 達成状況   | 改善点  | 評価 | 意見・理由   | 評価 |  |
| 児童が進んで考え、伝え合うことができる授業を目指し、授業力の向上及びその発信を図る。 | ① 「主体的・協働的な学び～2年次～」という共通テーマのもと、授業デザインについて昨年の反省をもとに研究を深める。小規模や全体での研究授業を複数回実施する。 | 児童が主体的、協働的に学べる授業を進めるため、教師の手立てとして「子供が動き出すための10のFunction key」を作成し、教師の手立ての有効性を検証した。 | 10の手立ての多くの有効性は検証されたが、使われることの少なかった手立ての有効性の検証が不十分であった。 | B  | 研修会において授業を公開し、アンケートを実施した。約8割の方から肯定的な評価をいただいた。 | A  | 引き続き、研究授業を行い、学校としてのさらなる授業力向上に務める。                          |
|  | ②外部に向けての発表会や研修会を年2回実施し、授業力の評価を問う。  | 新学習指導要領を見据えた授業の在り方を示唆するための研究会や、教師の手立てに重点を置いた研修会を実施した。どの発表においても、肯定的な評価が多かった。      | 小中高の連携をさらに強化し、キャンパスを通しての育てたい子供像をより具体化していく必要がある。      | A  | 新学習指導要領とわが国における教育課題を十分に踏まえた研究会が実施できている。       | A  | 多くの学校のモデルとなるべく、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業の在り方についての研究を深め、発信していく。 |

|        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 学校教育目標 | 好ましい人間関係を育てることによる集団的資質と社会性の育成。 |
| 学校教育計画 | 自他の立場を考えて、共に強調して行動できる児童を育成する。  |

| 本年度の重点目標<br>(評価項目)                  | 具体的な取組内容<br>(評価指標)                        | 自己点検評価   |                                     |    | 学校関係者評価                                       |    | 学校関係者評価を<br>踏まえた改善策                  |
|-------------------------------------|---|--|-------------------------------------|----|---|----|--------------------------------------|
|                                     |   | 達成状況   | 改善点                                 | 評価 | 意見・理由   | 評価 |                                      |
| 児童相互の交流が生じる<br>学校としての取り組みを<br>実施する。 | ①縦割りの活動(わくわく活動)を通じ、リーダーシップの育成を図る。         | 定期的な取り組みだけでなく、日常的な取り組み(縦割り清掃等)を実施することで、休み時間等自然な形で異学年交流する姿がよく見られた。  | 高学年がよりリーダーシップを発揮できる活動内容の検討が必要である。   | B  | 異学年のつながりが深まることが学校全体の活性化につながるのを継続して欲しい。        | A  | 各学年に応じた関わり方の在り方について検討を進める。           |
|                                     | ②文化発表会において、劇や音楽の発表を通じ、学級や学年の協力の必要性を実感させる。 | 劇や合奏合唱において、個人の力と全体のまとまりを発揮する場面が多く見られた。個別指導の質を向上させることで、全体のレベルも向上した。 | 内容を充実させるためのそれまでの指導に時間がかかってしまう傾向がある。 | A  | 今年度も素晴らしい取り組みであった。日常的な先生方の取り組みが十分であることがうかがえた。 | A  | 来年度も同様な発表を計画するとともに、指導時間の削減も考えていく。    |
|                                     | ③国際交流の推進                                  | 香港と台湾との交流に加え、新たにカナダのサマーキャンプに参加した。今ビデオレターの交換も実施した。                  | 交流の質の向上のため、日常的な交流や語学力の向上が必要である。     | A  | 子供たちの価値観を広げていく貴重な体験となっているので継続して欲しい。           | A  | 準備等をシステム化することで負担を軽減し、交流の機会を増やしていきたい。 |

|        |  |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 自他の命を尊重し、社会の平和と発展を希求する心情の育成。           |
| 学校教育計画 | 生命を尊重する意識を高め、地域社会や世の中の平和と発展を望む心情を育成する。 |

| 本年度の重点目標<br>(評価項目)        | 具体的な取組内容<br>(評価指標)               | 自己点検評価  |   |    | 学校関係者評価   |    | 学校関係者評価を<br>踏まえた改善策                            |
|---------------------------|----------------------------------|---|---|----|---|----|--|
|                           |                                  | 達成状況  | 改善点   | 評価 | 意見・理由   | 評価 |  |
| 生命尊重を重点内容とし<br>教育活動を実施する。 | ①6月8日の「祈りと誓いの集い」に向けての取り組みを継続させる。 | 事前の取り組み、当日の集いの式典に参加することで、参加者が命の大切さについて再認識することができた。当日、全学年、安全科の授業をすることで、児童・保護者で安全への意識を共有化できた。 | 事件を直接知らない児童や保護者に対して、事件を風化させない取り組みの再検討していく必要がある。 | A  | 事件を風化させることなく、命の大切さをしっかり考えることのできる取り組みを引き続き発信してほしい。 | A  | 事件を直接知らない教員が多くなった中で、事件を語り伝えていくための体制を構築する必要がある。 |

|  |                               |  |  |   |                                     |   |                              |
|--|-------------------------------|--|--|---|-------------------------------------|---|------------------------------|
|  | ②道徳週間等を実施し、学校全体で指導について交流を深める。 | 道徳の教科化に向けて道徳習慣を設けることで、学校としてのまとまりが見られた。教員相互の児童理解の認識も深まった。 | 児童が日常生活や現代の課題との結びつきを認識できるような手立てが引き続き必要である。 | B | 知識だけでなく、行動や態度で表すことのできる子どもをぜひ育ててほしい。 | B | 日々の指導を通して心身ともに子供を育てていく必要がある。 |
|--|-------------------------------|--|--|---|-------------------------------------|---|------------------------------|

|        |                                      |
|--------|--------------------------------------|
| 学校教育目標 | 健康の増進と、明るくたくましい心身の育成。                |
| 学校教育計画 | 身の回りの安全に注意し、自らの心身を進んで鍛えようとする心情を育成する。 |

| 本年度の重点目標<br>(評価項目)              | 具体的な取組内容<br>(評価指標)                                  | 自己点検評価   |   |    | 学校関係者評価                      |    | 学校関係者評価を<br>踏まえた改善策    |
|---------------------------------|---|--|---|----|------------------------------|----|------------------------|
|                                 |   | 達成状況   | 改善点   | 評価 | 意見・理由                        | 評価 |                        |
| 校内での安全な生活についての意識を高め。重大なけがを減少させる | ①安全科の授業等において具体的な場面をもとにどうすれば安全に生活することができるかを児童に考えさせる。 | 安全科の新カリキュラムをもとに授業を実施し、より具体的なイメージをもとに校内の安全等について考えることができた。 | 重大なけがは減少したが、怪我全体の数は減少につながっていない。個別指導も引き続き行う必要がある。                    | B  | 全体指導と個別指導の両方の充実が必要である。       | B  | 教職員で意識の共有を行い指導力の向上を図る。 |
|                                 | ②毎月の安全点検を活かし、危険個所の把握に努め、危険個所の早期改善に努める。              | 教員全員が、毎月担当場所を点検することで、その変化に迅速に気づくことができ、引き続き迅速な対応ができた。     | 昨年度と同様、施設自体の老朽化が現われ始めているので、引き続き安全点検が必要である。また、改修についても計画的に考えていく必要がある。 | A  | 定期的な施設の点検・改修が行われていることが感じられる。 | A  | 来年度も、今年度と同様に活動を行っていく。  |

|        |  |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 安全な社会づくりに主体的に参画する人間の育成。                          |
| 学校教育計画 | 安全科等の学習を通じて、人に守られるだけでなく、周囲に働きかけようとする意欲や態度の育成を図る。 |

| 本年度の重点目標<br>(評価項目) | 具体的な取組内容<br>(評価指標) | 自己点検評価                                     |                                  |    | 学校関係者評価                         |    | 学校関係者評価を<br>踏まえた改善策      |
|--------------------|--------------------|--|----------------------------------|----|---------------------------------|----|--------------------------|
|                    |                    | 達成状況                                       | 改善点                              | 評価 | 意見・理由                           | 評価 |                          |
| 安全に対して関心を高める       | 安全科の新カリキュラムの定着を図る。 | 学校全体で統一した安全科の授業日設けることで、カリキュラムの定着を図ることができた。 | 授業内容の深まりを意識しながら、カリキュラムの修正を行っていく。 | A  | 引き続き、わが国をリードする安全教育の取り組みを進めてほしい。 | A  | SPSの取り組みをより多くの機会で発信していく。 |

